

## 開 議

○平 進介議長 おはようございます。

これから本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員は、ございません。

なお、鈴木嗣郎財政課長から本日の会議を欠席させてほしい旨の届け出があり、佐藤秀人財務主幹が出席しておりますので、ご報告いたします。

本日の会議は、配付しております議事日程第2号をもって進めます。

### 日程第1 市政一般に関する質問

○平 進介議長 日程第1、市政一般に関する質問を行います。

なお、質問の時間は答弁を含めて60分以内となっておりますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、順次ご指名いたします。

### 浅野敏明議員の質問

○平 進介議長 順位1番、議席番号7番、浅野敏明議員。

(7番浅野敏明議員登壇)

○7番 浅野敏明議員 おはようございます。

トップバッターの共創長井の浅野敏明でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

ことしの夏は、昨年に引き続き、連日厳しい

暑さが続きました。30度以上の夏日は、7月24日以降8月15日まで連続23日間を記録し、その中で35度以上の猛暑日は3日間ありました。市民の皆さんにとって連日厳しい暑さが続き、体調管理に苦慮されたものと思います。9月の気温も平年より高い予報で、まだまだ残暑が続くと思われま

す。9月定例会の一般質問者は議長を除く全員の15人が立ち、これまでの議会では初めてのことだそうでございます。それぞれ活発な熱い議論を期待して、一般質問を行いたいと思いますので、簡潔で明快な答弁をお願いしたいと思います。

毎年、長井市の重要事業要望として山形県の関係機関や国の省庁などに要望書を配付、または要望会で趣旨を説明するなど、令和2年度の予算編成に当たり、重要な事業の支援をいただくため、暑い中、トップセールスでご努力しておられることに敬意を表したいと思います。今年度もリニューアルした旧長井小学校第一校舎を表紙にした令和2年度重要事業要望書ができ上がり、私たち議員にも配付になりました。重要事業として地方創生の推進を初め、継続事業26件、新規事業3件の事業の趣旨と要望内容とする要望書を各関係機関に配付されたことと思います。重要事業要望書に係る事業については、長井市が今後とも持続可能なまちを目指すため、全て必要な事業であります。このたびの質問では、そのうち中心市街地に係る主な重要事業についてご質問いたします。

1番目の質問は、都市計画道路整備事業と都市再生整備計画事業の推進についてご質問をします。

まず、都市計画道路整備事業推進についてご質問します。

桐町成田線街路整備事業は、平成22年度に県の新規事業に採択、翌平成23年度に国の事業認可になり、平成29年度までの事業期間として、

総事業費27億円の街路事業として実施されました。しかし、要求どおりの事業費の予算化がされず、これまでの年間事業費は用地補償費を中心に、公共単独合わせて3億円前後の事業費で推移し、完了年度が大幅延長になっています。その間、車道、歩道の消雪化や電柱の地中化については、事業着手前から県に要望していましたが、ようやく設計に反映できることが決定され、街路灯の設置とセットバックの舗装についても3期目の都市再生整備計画事業で実現できることになりました。平成23年度から平成30年度までの実施済み事業費と進捗率について建設課長にお尋ねします。

これまで要求どおりの予算がつかず、なかなか街路事業が進みませんでした。令和元年度、桐町成田線街路整備事業の当初事業予算が大幅に増額になっており、完了年度も見えてきたのではないかと思います。

また、都市計画道路長井駅海田線の街路整備事業についても、新市庁舎が駅前に建設されることになり、また、都市再生整備計画事業による公共複合施設や新市庁舎にアクセスする道路整備も着手されることから、長井駅海田線の街路もあわせて整備する必要があります。このたびの都市再生整備計画事業は、立地適正化計画を作成し、持続可能な集約型都市構造への再構築を図る目的である都市再構築戦略事業が採択されていますので、本事業の関連事業として早期に事業化しなければならないと思います。桐町成田線街路事業の完了年度と長井駅海田線街路事業の事業採択の見通しについて市長の見解を伺います。

また、令和元年度の桐町成田線街路整備事業予算と事業概要、及び変更された全体計画について建設課長にお尋ねします。

次に、都市再生整備計画事業についてご質問をします。

3期目となる長井駅前地区都市再生整備計画

事業については、整備方針を、1、交通利便性にすぐれている長井駅周辺地域に公共施設を再編するため、図書館、子育て応援施設を合築し、長井駅前に整備する。2、地域包括ケアシステムを推進するため、公立置賜長井病院を訪問看護ステーションと合築し、再整備する。3、公共施設の再編に伴って必要となるアクセス道路などを整備するとして、令和元年度から令和5年度までの計画期間で面積56.3ヘクタール、全体事業費が72億380万円、うち補助金が33億9,190万円としています。

主な基幹事業では、高次都市施設として子育て世代支援センターの整備、中心拠点誘導施設として図書館の整備と長井病院整備、道路整備では、駅前周辺の道路整備として市道長井駅前線、本町西1号線、西裏線の整備や本町東線の消雪整備が計画されています。

図書館と子育て応援施設の合築する公共複合施設の整備に当たっては、平成31年3月定例会の蒲生光男議員の一般質問に対する市長答弁で、底地についてはグンゼ株式会社所有のままで、建設手法をPPPによる民設公営型で検討しているとの説明がありました。この手法によりまず、民間が建設した施設を長井市が取得し、その運営を行政が行う場合に用いられる手法です。施設を取得する時期に一括支払いする必要がありますが、建設費の支出を一時先送りできますが、長期的に建設資金分を支払う手法と比較し、メリットが少ないのではないかと思います。図書館と子育て応援施設を主とする公共複合施設を民間の資金で建設して、施設の所有権を長井市が取得した上、施設全体の管理運営を民間が行うことで、主要な施設は長井市が運営できます。建設についても、長期返済が可能なPFIによるBTO、ビルド・トランスファー・オペレート方式が最も有利だと思います。BTOによる建設手法についても検討すべきだと思いますが、市長の見解を伺います。

次に、中心拠点誘導施設の長井病院整備についてご質問します。

中心拠点誘導施設とは、立地適正化計画の誘導施設として位置づけられ、地方都市の拠点の活性化に資する施設で、そのうち医療施設も対象施設となることから、補助対象に認められたものと思います。公立置賜長井病院の整備に当たっては、これまで議会に対しても事業概要の説明がありましたが、市民の皆様にはあやめR e P oでお知らせしたほか、近隣住民への説明会を去る8月7日に長井病院3階会議室で開催されました。新設される長井病院の開設までの工程や解体などにおける大型車両の通行、騒音やアスベスト対策など、近隣住民の不安を解消し、開設後に快適に長井病院を利用いただくための説明会だと思っておりますが、主にどのような質問があつて、回答を保留したものや、検討するなど回答したのどのような内容であつたのか、健康課長にお尋ねします。

実施設計に当たっては、設計段階から施工者の技術力を設計内容に反映させることで、コスト縮減や工期短縮を可能とするE C I、アーリー・コントラクター・インボルブメント方式により進めているとの説明がありました。整備スケジュールによると、病院本体の解体を令和2年度に終え、新病院建設を令和2年度から着手し、令和3年度に完成、令和4年度に外構工事は残るものの、令和4年度当初に開業する予定となっております。また、全体整備構想図を見ますと、市道東裏線と市道屋城町線の両方向からの進入路がありますが、東裏線の有効幅員は7メートル、屋城町線の有効幅員は5メートルと狭く、歩道スペースがありません。完成後に、自動車の往来とともに、多くの歩行者が予想されることから、交通安全対策には十分配慮して設計する必要があると思います。現在、西側の市道東裏線との境界にはれんが積みの花壇があり、見通しが非常に悪い状態であることから、

新病院建設に当たっては、敷地側に歩道スペースも含めた緩衝帯が必要だと思います。また、東側の市道屋城町線の進入路と接続する箇所はクランクになっており、また、ごみの集積所が設置されていますので、見通しが悪いため、安全に出入りできるよう、拡幅などの交通安全対策が必要だと思いますが、市長の見解を伺います。

次に、都市再生整備計画事業における財源などについてご質問します。

配付になりました都市再生整備計画事業の資料を見ますと、全体事業費72億380万円、国費38億9,190万円で、令和元年度の要望額は事業費で10億6,750万円、国費で5億520万円と記載されています。国費率については、立地適正化計画を作成し、都市再構築戦略事業として採択を受けることにより、国費率は原則50%が適用になっています。改めて、本事業に係る主な対象事業ごとの国費率について青木参事にお尋ねします。

あわせて、そのうち事業費から国費を差し引いた分の負担を、いわゆる裏負担と呼びますが、その裏負担額における起債や一般財源の負担の割合と起債に係る交付税措置の割合、及び実質一般財源による負担額について建設参事にお尋ねします。

2番目の質問は、中心市街地活性化基本計画の事業推進についてご質問します。

第1期中心市街地活性化基本計画、以下中活計画とします、は、平成28年3月に認定され、平成28年4月から平成33年、令和3年になりますが、3月までの5年間の期間で大きな2つの目標として、1、まちなかのにぎわい創出に係る主な事業として、本町複合施設整備事業、公共複合整備事業、企業・創業支援事業を掲げ、2、交流人口の拡大に係る主な事業として、観光交流センター整備事業、観光交流づくりプラットフォーム事業、フラワー長井線再生事業を

主な事業として掲げていますが、これまでの実績と評価について産業参事にお尋ねします。あわせて、中活計画に係る今後の課題についてもお尋ねいたします。

この間、平成30年3月と平成31年3月に2回にわたって計画変更されています。1回目の変更計画では、旧長井小学校第一校舎を交流拠点施設と位置づけるとともに、けん玉のふる里プロジェクト事業とタス再生整備事業を追加しています。また、2回目の変更計画では、第一種大規模小売店舗立地法特例区域の設定や観光地域づくりプラットフォーム事業、農産物直売店運営事業やまちの駅運営事業が追加されています。改めて、計画変更の狙いと、今後の予定としている令和3年度からの2期目の中活計画において、1期目の継続事業とするものも含め、2期目の中活計画の骨子について産業参事にお尋ねします。

3番目の質問は、かわまちづくり事業の推進とあやめ公園とはぎ公園を一体化する河川環境整備の早期着工についてご質問をします。

先に、かわまちづくり事業の推進についてご質問をします。

最上川の河川緑地の整備については、国土交通省、かわまちづくり支援制度により、長井地区かわまちづくり計画に基づき、これまで最上川フットパスや舟通し水路広場などを整備していただきました。平成29年度からは、置賜白川の河川空間の整備と川のみなと長井周辺の河川緑地整備として、未整備であった国土交通省所有の河川敷地約2.7ヘクタールを長井市が占有し、そのうち駐車場、緑地広場、多目的広場など約1.4ヘクタールが完成しました。ことしの6月22日には、その完成した河川緑地を会場に、あやめ祭りのイベントである黒べこまつりが開催されました。最上川を眺めながら、広々とした敷地に大勢の人が集まり、天気にも恵まれ、それぞれ好みの飲み物とともに米沢牛に舌鼓を

打ちました。会場に隣接する地元の皆様にも、これまで一面に雑草が生い茂っていた河川敷が整然と整備されたことで、大変喜んでいますが、一日でも早く川のみなと長井周辺の河川緑地整備の完成を待ち望んでいるかと思えます。

2019年、長井黒べこまつりにおける一般、来賓者の来場者数と売上額及び経費について農林課長にお尋ねします。あわせて、近隣市町で開催している同様のイベント時における入場者数などの状況と、今後の規模拡大の予定についてお尋ねします。

このたび整備された最上川河川緑地は、まだ全体計画の一部ですが、市民の憩いの広場となり、長井市のイベントに深くかかわる河川緑地としての利用が期待されています。今後も、黒べこまつりの会場として利用していくのでしょうか。今後、整備された河川緑地をどのようにまちづくりに生かしていくのか、市長にお伺いいたします。

市民の河川緑地として親しまれ、市外から訪れた方にも利用していただくためには、完成後の維持管理が最も重要だと思います。今年度予定の整備事業のうち、未着手工事の概要と完成後における横断する水路も含め、完成後の維持管理について建設課長にお尋ねします。

来年度、かわまち大賞を記念するフットパスシンポジウム開催を予定しているかと思えますが、最上川フットパスを初めとするフットパスコースの維持管理と案内サインなどについては、フットパスの先進地にふさわしい対応が重要であり、長井フットパスを訪れる方がいつでもフットパスを楽しく、気持ちよく歩けるようにしていただきたいと思えますが、今後におけるフットパスの維持管理と案内サイン、案内看板の現状について建設課長にお尋ねします。

このたびのかわまちづくり事業推進についての重要事業要望では、水辺の活用を広げるため、左岸の未整備区間の事業推進について要望され

ています。これは、川のみなと長井に隣接する河川緑地の事業推進と理解しますが、このたび整備された河川緑地と平成24年度に整備された宮船着き場跡と舟通し水路広場をつなぐ、その間の河川緑地の整備は、川のみなと長井の魅力を高め、市民の皆さんや長井を訪れた方の憩いの河川空間となります。河川緑地整備は引き続き実施すべきと思いますが、事業の見通しについて市長の見解を伺います。

次に、あやめ公園とはぎ公園を一体化する河川環境整備の早期着工について伺います。

昨年度まで、重要事業要望では置賜野川河川環境整備の早期着工の事業名で要望されていましたが、今年度の令和2年度重要事業では、あやめ公園とはぎ公園を一体化する河川環境整備に名称を変更しています。本事業については、最上川流域地域づくり推進協議会の前身である最上川流域観光交流推進協議会のアクションプログラムに山形県の事業として計画されていましたが、5年間で実施できなかった事業であり、長井市の重要事業として毎年要望されていたかと思えます。本事業については、これまでの事業名について、さらに目的と効果を強くアピールするためと理解しますが、この河川環境整備については、もともと置賜野川に水辺を散策できる通路や野川を横断する施設を整備し、両岸にある観光施設の一体化を図る目的で計画されたものです。川とまちをつなぐフットパスの関連施設として位置づけられており、実現するには、最上川フットパスと置賜野川フットパスを結ぶ取り組みが必要ではないかと思っています。最上川フットパスとして野川合流点まで木道が整備されていますが、野川と結ぶフットパスが整備されていません。かわまちづくり計画の野川バージョンの計画を策定し、野川フットパスの整備が必要ではないでしょうか。最上川と野川の合流点から上流域については、国土交通省と山形県が連携して取り組んでいる最上川官民

連携プラットフォームモデル事業に選定されており、間もなく支障木の伐採が実施されるものと思います。本事業を実現するため、両計画を統合し、地域づくりや観光とフットパスを統合した長井かわまちづくり総合計画、仮称であります。の策定が必要ではないかと思えます。野川フットパスの取り組みと総合計画の策定について市長の見解を伺います。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○平 進介議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 おはようございます。

浅野議員からは、今、私も長井市が総力を挙げて取り組んでおります長井市の将来ビジョン、グランドデザインと伺いますか、少子化、高齢化、また人口減少が著しい西置賜の中にあっても、私たちの長井市がこれからも持続可能なまちとして存続するための、特に中心市街地の活性化、その核となる魅力ある都市機能、これらについてのハード事業についていろいろご提言、ご質問をいただきました。私のほうから大きく2項目、6点ほどご質問がございましたので、お答え申し上げたいと思います。

まず最初に、1点目の都市計画道路整備事業と都市再生整備計画事業の推進についてということで、いわゆる本町の街路事業、これは正式名称は桐町成田線街路事業、及びその次の長井駅前通りですね、これは長井駅海田線街路事業について、今後の見通しはどうだということでございます。

長井市が来る少子高齢化による人口減少社会と都市部のスポンジ化に対応するためには、都市部の機能集約によるにぎわいの創出や交流人口の拡大、ひいては市民の皆様の使いやすさ、暮らしやすさを図る上で、国の施策として上げられておりますコンパクトシティーを進めることが目下、最重要課題だと考えております。昨年、私たち長井市は県内では3例目、置賜では

初めてとなります立地適正化計画を策定し、公表しました。この中で、平成28年3月に内閣総理大臣から認定されました中心市街地活性化基本計画、この区域内に都市機能誘導区域を設定しておりまして、このエリアでのまちづくりの基幹となるのが3つの事業でございます。

1つ目が、現在県のほうで進めていただいております都市計画道路桐町成田線、いわゆる本町の街路事業、2つ目が、今年度より令和5年度まで長井市が進める長井駅前地区の都市再生整備計画事業であり、そして3点目が、駅と一体となる、新庁舎と合築となります新たな長井駅の正面に通ずる表玄関となる都市計画道路、長井駅の海田線だというふうに考えてます。

本町の街路事業につきましては、議員からもありましたように、平成22年度の事業着工によりまして、着手から10年経過しております。本来であれば、29年度、30年度、昨年度あたりには完成の予定でしたので、大幅におくれてしまったということなのですが、幸いにも、国のほうで国土強靱化予算というのを新たに昨年から確保していただきまして、昨年、ことし、来年とこの3カ年で相当程度事業の進捗が一気に進むという、見込まれる状況になっております。今年度も当初予算8億円、ですから、従来でいえば、2.5倍から3倍ぐらい余計に予算がついたということでございます。長井市でも、事業の進捗に合わせましてセットバックの整備や街路灯の新設を施行する予定でありまして、地元のまちづくり協議会の早期完成の期待も高まっているところでございます。今年度は、中央十字路付近の物件補償と上下水道管の移設、電柱地下埋設に伴う電線共同溝の工事等、主に地下埋設物の移設工事を南側、旧ヨークベニマルの跡から風林堂付近まで210メートルの区間で着手するというところで、間もなく工事が始まるところでございます。県では、予算と順調に推移した場合、来年、再来年の令和3年度の全線開

通を、完成を目指しているところでございます。

続きまして、駅前通り、長井駅海田線についてでございますが、これも県道なわけですが、桐町成田線、本町の街路事業と、それから、私どもが国土交通省の、苦勞しましたけど、承認をいただきまして、何と5割補助で都市再生整備計画事業、先ほどこれは議員から詳しく説明いただきましたけども、長井市ではいまだ多分一番大きい、5年間で72億円の事業費で、いわゆる公共複合施設、魅力ある長井のまちをつくるための根幹の施設を事業として進めていきます。29年4月にオープンしました川のみなと長井、道の駅でございますが、この4月で2年を待たず、100万人の来場者を数えまして、また、この4月には県道沿いに、駅前通り沿いに旧長井小学校第一校舎が学びと交流の施設として開館しまして、現在まで3万人以上の方がご利用いただいているということで、新たなにぎわいを創出しております。

今後、新庁舎、長井駅とこれらを結びいわゆる県道長井駅海田線は、中心市街地活性化基本計画の核となる事業でございます。あわせて、市道として整備する南北の新庁舎前の道路、この街路事業により長井駅前広場と一体となり、さらなる利便性を図られることとなります。新庁舎や桐町成田線の竣工に引き続き、事業着手が図れるように、事業採択に向けまして、県、国に要望してまいりたいというふうに思います。

2点目でございますが、いわゆる都市再生整備計画事業、これは長井市では3つ目でございます。最初は小桜館周辺の大町、十日町周辺の整備を行ったわけでございますが、そして、まちなかのフットパス、2回目の都市再生整備事業については、道の駅、観光交流センターの整備やら、あるいは消雪道路3路線、また、石畳道路等々を行ったわけでございますが、今度は3次の都市再生整備計画事業として、1段ランクが上の都市再構築戦略事業ということで5割

の補助事業、しかも100%、今年度も事業費を予算つけていただいております。こちらについては、先ほどから申し上げておりますが、市庁舎の南側になりますグンゼさんの敷地をグンゼさんからご協力いただきまして、PPPによる民設公営型でグンゼ株式会社と協議を現在進めているところでございます。議員からは、BOTによる建設手法ということで、横文字が並びますけども、PFIの手法の一つでございます。私ども、PPPということで進めているのはなぜかといいますと、当初、グンゼさんのほうからは、大変広い遊休の土地があると。ただ一方で、現在も社員の方60名ぐらいで大変貴重なグンゼの下着を生産しておりますので、そちらの部分を除きましても、かなり遊休の土地があるということから、グンゼさんとしても、その土地を活用しながら、長井市と一体となって、長井市では子育て世帯のいわゆる屋内の遊戯施設、子供たちの遊び場、あわせて多機能型図書館、これを複合施設として整備しよう。グンゼさん側としては、テナントの、いわゆる商業施設等々の入るテナントのビル、並びに、場合によってはスポーツジムもやってみたいというようなお話がございましたので、PPPで進めようということで今行っております。ただ、やはりグンゼさんのほうとしては、工場がまだ稼働しておりますので、それらも含めて、今後、先ほどの公共複合施設については、来年から設計に入って、再来年、工事できれば、1年ぐらいで完成してほしいと考えておりますので、早急にこれを今詰める状況でございます。

なお、やっぱり大切なのは、この後の質問でもお答えいたしますが、私どもはハード事業、議員からはハード事業についての説明がありましたけども、ハードだけではやはりだめで、やっぱり基本にあるのは、私どもが進めております教育、子育ての施策のさらなる充実と、県内トップレベルはもちろん、東北でもトップレベ

ルの教育に目指して頑張っておりますが、それらの充実とともに、文化、スポーツの充実、あわせて、何といたっても市民の皆様の健康を守るための健康医療の先進都市、そして、福祉の充実をあわせてこのハード整備等を行っていかないと、やはり魅力あるまちとは言えないだろうと考えておりますので、ぜひソフトについてもご注目いただきたいと思います。

3点目でございますが、市道東裏線と屋城町線からの進入路における交通安全対策についてということでございますが、ご承知のとおり、長井病院、大変老朽化しており、特に耐震度が極端に低いということから、多額の事業費がかかりますけれども、私どももそれらについて準備を進めまして、私どもは、あの病院は私どもで全額、建設についても運営費についても負担しているわけですが、それは、県と長井市を含めた2市2町で構成しております置賜病院、今、企業団が建設するということになります。本来、私どもでやれば、2分の1補助で実はできたんですが、なかなかそれは難しいということで、それでも、企業団を説得しまして、補助事業でやるんだと。これやることによって、7億円、8億円余計に補助をもらえるっていうことは、これ理解しとかなきゃいけないっていうことで、やっと重い腰を上げていただきまして、これも国交省の補助で行うことになりました。

ご承知のとおり、3年半ぐらいかけて行うわけですが、これらについては後ほど健康課のほうでも答弁させていただきますが、地元の住民の皆様、地区の皆様のご理解、ご協力を得ないとなかなか、長い工事ですから、迷惑かかるなということでございますが、そのために、時間もありませんので、簡単に申し上げますと、周辺の道路の整備については、当然西側の市道東裏線、そして、屋城町線になるわけですね、東側が。そちらのアプローチについては、屋城町線のほうからの入り口もつくらせていただく

ということですから、道路計画については事業の進捗とともに、3年半後ですが、来年あたりにやっぱり計画をきちっと立てながら、やっていきたいと考えております。その際には、大幅に交通量がふえれば、これはすばらしいことなんですが、やはり一般病棟50床と、それから23床の人工透析、あとは補助事業を受けた一番の部分は訪問看護ステーション、365日24時間と、地元の医師会との医療連携、いわゆる、それとあとは地域包括センターですね、そういったことで、医療だけじゃなくて、介護とか福祉の拠点になるんだということですので、それらも考慮した対応をしてみたいというふうに思っています。

続きまして、4点目でございますが、かわまちづくり事業の推進とあやめ公園とはぎ公園を一体化する河川環境整備の早期着工についてということでございますが、これらについては、もともと2.7ヘクタールも私どもが観光交流センターをつくと。それは、長井が川を生かしたまちづくりを、フットパスなどを進めているということで、全て、5.0ヘクタールを全部買っていただく予定だったんですが、残念ながら、なかなか議会で認められないんじゃないかっていうことで、2.7ヘクタールで終わってしまったんですが、それらについては、私どもとしては有効に活用すると。その場合、黒べこまつりはもちろんですが、将来の構想といたしましては、やはり長井橋周辺の河川公園と、そして、タスマの最低限、そこまでの河川敷は整備しながら、市民の憩いの場であり、なおかつ、長井がいわゆる重要文化的景観ということで、最上川周辺における長井の町場景観ということで文化庁から認定をいただいたわけですから、それを生かすということは、とりもなおさず、船着き場の整備、跡地の整備やら、あるいは、この間も致芳地区で渡し船っていうのをやったんですが、私どもとしては、さくら大橋から長井

橋の間を国交省にお願いして、しゅんせつしていただいて、そこを船で周遊できると、老船とか小さい船になると思うんですが。そして、それを体験できる場所として、また、広大な河川敷がありますので、場合によってはさまざまな、いわゆるミズベリングみたいな形で、民間の皆様が事業参画を仰ぎながら、いろんな楽しみながらできるエリアにしたいと。それがまちなかと隣接しているわけですから、長井にとっては、川のまちとしての魅力アップにつながるというふうに思っております。

最後に、あやめ公園とはぎ公園の一体化についてですが、議員からいろいろ説明をいただきまして、今までの経過っていうのは知ってる人がもういないんですね。何回も説明をしてきたんですが、要望してきたんですが、県はけんもほろろでした。これはやっぱりハードだけを要求してもだめなんだろうなというふうに思っまして、やっぱり総合的な計画を立てるとした場合、まず、フットパスをどういうふうに生かすんだと。やっぱりそれを推進する推進母体がこれから、花スポとか、あるいは最上川リバーツーリズムネットワークなんかにもお願いしてありますが、毎週ウォーキングでフットパスを市民の皆様が何百人も土曜日朝から散歩する。今も散歩されてる方多いんですけども、そういった目に見える形でこれから使うんだと。だから、県のほうもぜひ整備に力をかけてほしいということではないかと、なかなかハードありきだけでは難しいのではないかなと考えているところでございます。

ちょっと答弁長くなりましたけど、以上でございます。今後ともよろしく願いいたします。

○平 進介議長 青木邦博建設参事。

○青木邦博建設参事 お答えいたします。

都市再生整備計画事業に係る対象事業費ごとの国費率でございますけれども、この事業につきましては、先ほど来、市長からお話ありまし



たが、立地適正化計画の策定によりまして、持続可能な集約型都市構造への再構築を図ることから、都市再構築戦略事業として交付率が40%から50%にかさ上げされております。交付対象事業の基幹事業としては、4路線の道路整備事業、桐町成田線のセットバック舗装や情報板、街路灯の新設、子育て世代活動支援センター、そして、多機能型図書館がございます。これらの事業主体は、長井市の直接補助としてそれぞれ1事業1路線、上限が21億円の50%の補助が受けることができます。実施計画書の段階では、直接補助交付対象事業費51億380万円のうち交付金が半分の25億5,190万円、裏負担の起債につきましては、公共事業等債、充当率90%で22億9,671万円、一般財源が2億5,519万円になります。

なお、交付税措置は公共事業等債、財源対策分40%の2分の1ですので、20%ということになります。

もう一つの中心拠点誘導施設である長井病院につきましては、事業主体が置賜広域病院企業団になりますので、間接補助ということになり、上限が21億円の3分の2に複合整備による1.2のかさ上げ措置を乗じた16億8,000万円が補助基本額になりまして、その50%、8億4,000万円が交付金となる予定でございます。その裏負担につきましては、100%病院事業債が充当でき、実施計画段階でございますが、総事業費36億8,100万円のうち、総起債額は28億4,100万円になります。

なお、病院事業債の交付税措置は、通常のスキームは25%ですけれども、要件により40%の特別分の交付も可能となりますので、詳細設計ができ、発注金額が確定した段階で再精査するということになると思います。以上でございます。

○平 進介議長 小林克人健康課長。

○小林克人健康課長 ご質問いただきました問い

1の(2)都市再生整備計画事業についての①公立置賜長井病院改築工事の住民説明会について、主にどのような質問があって、回答を保留したものや、検討するなど回答したのはどのような内容であったのかについてお答えいたします。

置賜広域病院企業団が主催する公立置賜長井病院改築工事の周辺住民説明会でございますが、8月7日に長井病院で開催されてございます。まの上、栄町、東町、屋城町、大町、十日町、緑町、舟場の8地区の皆様にご参加いただいたところでございます。

全体整備構想の説明では、建物の老朽化による耐震性能の確保と療養環境の改善を行うとともに、山形県地域医療構想を踏まえまして、在宅医療の推進拠点機能、精神科外来機能、人工透析機能を有する医療施設としまして、整備に当たっては、病院の入院、外来の機能を継続しながら、現在の敷地内で建てかえをすることになりますので、工程スケジュール等の説明がなされたところでございます。

主な質問でございますが、駐車場の排水対策、診療科目と医師の配置、工事期間中の通学路安全対策、新病院の災害対策、進入路の安全対策等につきましてのご質問や、地区の避難場所として今後も使用させてほしい、詳細な工事説明会を開催してほしい等の要望がございました。質問にはおおむね回答していたというふうに思っているところでございますが、今後、実施設計に反映できるものは検討いたしまして、本体工事に入る前に詳しい工事説明会を開催する考えのようございました。以上でございます。

○平 進介議長 なお、答弁につきましては、簡潔にお願いいたします。

佐原勝博建設課長。

○佐原勝博建設課長 ご質問の桐町成田線街路事業の平成23年度から平成30年度までの実施済み

事業費及び進捗率につきましてお答えいたします。

平成23年度から平成30年度までの実施済み事業費は23億5,200万円でございます。また、事業の進捗率につきましては、総事業費が現在のところ、約32億円でございますので、全体事業費ベースの進捗率は約74%でございます。

次に、令和元年度の桐町成田線街路整備事業予算と事業概要、及び変更されました全体計画につきましてお答えいたします。

令和元年度の当初予算は約8億円で、事業概要につきましては、市長答弁にもございましたが、計画区間の旧ヨークベニマルから風林堂付近の210メートルの区間で、電線共同溝の施工や上下水道の移設工事、そして、道路改良工事と用地補償を予定してるところでございます。また、変更されました全体計画につきましては、平成29年度に計画区間の旧ヨークベニマルから本町中央十字路までの280メートルの区間で無電柱化が事業に加えられ、さらに平成31年3月に本町中央十字路からきらやか銀行付近までの110メートルの区間も無電柱化を行うことが東北地方無電柱化協議会におきまして合意が図られました。そして、全区間の390.2メートルでの無電柱化が決定したことにより、全体事業計画の見直しがされたところでございます。

なお、追加となりました事業費につきましては、現在精査中でございます。

続きまして、河川緑地における今年度の未着工工事の概要と、完成後における横断水路を含めた維持管理につきましてお答えいたします。

最上川河川緑地整備での今年度の今後の工事概要につきましては、事業費2,571万8,000円で、横断します水路を含む多目的グラウンド約5,000平米と小出船着き場跡の石碑周辺の公園約7,400平米の整備と、5月に完成しております駐車場東側に男女各1基の簡易水洗型トイレを設置いたします。完成後の維持管理につつま

しては、市民や観光客の皆様が気持ちよく利用していただけますように、芝生エリアやのり面等の除草ですとか水路の清掃等、維持管理に努めてまいりたいと考えておるところでございます。

次に、最上川フットパスを初めとするフットパスルートの維持管理の実態と今後の課題につきましてお答えいたします。

最上川や白川のフットパスルートの維持管理につきましては、業務委託によりまして安全確認や除草作業などを行っております。整備されてから15年以上が経過しているため、木道の老朽化や舗装面に根上がりや亀裂が生じ、のり面の崩れなど修繕が必要な箇所がふえておりますが、総延長も約10キロメートルに及ぶため、計画的に修繕を実施してまいりたいというふうに考えております。

案内サイン、案内看板につきましては、平成27年度に社会資本整備総合交付金等を活用し、まちなかの案内サインを含め、大幅に見直しを行ったところでございます。これまでに案内サインを9カ所撤去し、新たに26カ所を設置、また、プレートの見直しを含め、既存サインを修繕するなど、現在、53カ所に設置してるところでございます。

課題につきましては、来年度に開催予定のフットパスシンポジウムに向けまして、まちなかルートを含めまして点検を強化し、早急に修理が必要な箇所の整備を行ってまいりたいと考えております。

私からは以上でございます。

○平 進介議長 藁谷 尊産業参事。

○藁谷 尊産業参事 私から、中心市街地活性化基本計画のこれまでの実績と今後の課題、そして、2期計画について答弁させていただきます。

実績と評価、今後の課題ということでございますけれども、主な実績といたしましては、観光交流センター建設による交流人口の大幅な増

加、民間事業の本町テナント施設整備によるにぎわいの創出、旧長井小学校第一校舎が学びと交流の場としてオープンし、道の駅からまちなかへの誘導拠点として活用が始まったこと、また、一般社団法人やまがたアルカディア観光局の設立により、観光プラットフォームづくりを進めており、民間事業者と観光局の連携が新たな観光商品の造成が進み、滞在型や体験型の観光、まち歩きが増加したことが上げられます。

進捗に関する評価につきましては、行政で毎年定期フォローアップ報告を作成しておりますので、その中で検証しております。その検証結果としましては、計画当初に掲げた目標に対しまして、今のところ、おおむね達成できるというふうに評価しております。

なお、この評価につきましては、外部団体としまして、商工会議所が事務局となります中心市街地活性化協議会からも意見をいただいているということでございます。

今後の課題としましては、指標の数値的な達成は見込められるということでございますけれども、本町大通り商店街における街路事業のおくれから、移転などにより未開発地が出ていること、他の商店街において依然としてまだ空き店舗が目立つというような状況から、まちなか活性化の実感が薄いということが上げられると思います。このため、早期のにぎわいを回復するため、民間事業者が投資しやすいよう、各種支援策を進めてまいりたいと考えております。

2点目につきましては、2期目の中心市街地活性化基本計画についてでございます。

これについては、議員がおっしゃったとおり、これまで2回の変更をしております。これらの狙いにつきましては、計画に掲載することで、事業の誘導や事業実施を進めやすくすることになりますし、指標の早期達成につながることで、また、これにより各種優遇制度を活用でき

るということが上げられます。

そして、2期目の計画でございますけれども、1期目に掲載しました55の事業の中にはおこなっているものもございまして、中心市街地活性化の目標達成のために、中活計画を継続して、その有利な事業推進を図るべきと考え、このたび2期計画策定の必要性を庁内での検討会において確認しまして、準備を開始したところでございます。

2期計画の内容につきましては、まだ準備段階ということで、まだ始めたばかりでございますので、骨子というものについてはお示しできる段階でございません。ただし、1期計画でまだ事業が完了してないものもございまして、それも含めて検討していきたいというふうに思っております。以上でございます。

○平 進介議長 沼澤孝典農林課長。

○沼澤孝典農林課長 かわまちづくり事業、黒べこまつりの状況でございますけれども、2019年に行われました黒べこまつりにつきましては、一般入場者が456人、ご来賓の方が44人ございました。席チケットの売り上げでございますが、148万2,000円、114枚出ております。ほかに収入といたしましては、焼き肉のチケット、前売りでございますが、55万円ほどあります。経費の概算ですが、収入額につきましては413万9,127円、支出額につきましては344万6,390円の予定でございます。

なお、スタッフにつきましては、JAおきたまさん、米沢牛の振興部会さん、そのほかたくさんの方々にご協力をいただいております。総勢50名でございました。

近隣市町の状況でございますが、米沢市、米沢牛肉まつりでございますが、会場については松川河川敷、規模については1,000人でございます。川西町、地酒と黒べこまつりでございますけれども、規模については800人、ダリヤ公園で行われる予定です。飯豊町につきましては、

いいで黒べこまつり、規模が700名というふうなことでございます。これは、どんでん平のゆり園で行われています。

今後の規模でございますけれども、長井市のプロモーション、畜産業の振興というふうなことを考えますと、より盛大にと考えておりますけれども、会場の諸条件、肉の調達予算等々ございますので、関係団体で組織する実行委員会で最終的には決定をしていきたいというふうに考えてございます。以上でございます。

○平 進介議長 7番、浅野敏明議員。

○7番 浅野敏明議員 それぞれ丁寧な答弁ありがとうございました。各中心市街地の諸事業については、にぎわいを創出する重要な事業でありますので、今後とも要望等でぜひ実現できますよう、ぜひ汗をかいていただければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

これで質問を終わります。ありがとうございました。

### 勝見英一朗議員の質問

○平 進介議長 次に、順位2番、議席番号2番、勝見英一朗議員。

(2番勝見英一朗議員登壇)

○2番 勝見英一朗議員 質問させていただきます。よろしくお願ひいたします。

まず、質問に入る前に、6月議会の一般質問に関して、その後の状況を簡単に述べさせていただきます。

6月議会では、全国学力・学習状況調査、キャリア教育、そして、職業教育について質問いたしました。市当局からは丁寧なご回答をいただき、ありがとうございました。キャリア教育については、自分に合った進路を見つけることが目的ではなく、社会に役立つために、自分

はどんな役割を果たすのかを考えさせるという大きな目的に基づくものであることをご理解いただいたと思っております。小中学生に地域の産業を知らせようという動きも長井キャリア教育研究会として具体化することとなりました。また、本市として、長井工業高校の学科改編に積極的にかかわっていくことについても、一歩踏み出していただけるのではないかと期待するものです。土木系短期職業訓練の開設については、長井高等職業訓練校を含めて考えていくというご回答をいただいたのですが、開講科目の内容や対象とする受講者、講師の確保など、詰めなければならないことが多いようですので、関係機関のお話をお聞きして、具体化できる段階になりましたら、市当局のバックアップをぜひお願ひしたいと思っております。

以上、私の6月の一般質問に関して、その後の状況を述べさせていただきました。

さて、その上で、今議会の質問ですが、大きく3点、1つは、前回に引き続き、全国学力・学習状況調査について、2つ目は、中高一貫教育校について、3つ目は、特別な支援が必要な子供への対応について質問させていただきます。

まず第1ですが、前回に引き続き、全国学力・学習状況調査について教育長に質問させていただきます。ただ、今回は評価の仕方に関連して、3項目質問いたします。

令和元年度の調査は、ことし4月に実施され、その結果は7月末に発表されました。山形県の実績については、県のホームページを見ますと、全国平均との比較でよいところと課題があるところが示されております。

さて、長井市ですが、今年度の状況はどうだったか、お尋ねいたします。その際、全国や県の平均点との比較ではなく、本市がこれまで行ってきたふだんの指導と照らして、期待どおりだったのか。それとも、期待以上だったのか。あるいは、期待したレベルに届いていなかった